

2020年度 第2回 レビー小体型認知症サポートネットワーク京都 活動報告書

日時：2020年7月18日 13:30～15:00

内容：医師の講話と質疑応答

参加者：21名

コロナ禍の中、zoom機能を活用したonlineでの交流会を開催いたしました。少しでも理解しやすいよう、事前に聞きたいことを伺って、それをもとに講義が構成されました。また交流会に先立って、zoomの練習会の時間を設け、入り方、音声などの確認を行いました。以下にその内容（一部）を報告いたします。

➤ レクチャー テーマ「行動の裏側にあるもの～レビー小体病と共に歩む～」

講師：京都大学大学院研究科附属脳機能総合研修センター：脳神経内科 石井 徹医師

1. 幻視について

色んなパターン見え方について事例に基づいて説明がありました。

2. レム睡眠行動異常症について

睡眠リズム（レム睡眠・ノンレム睡眠）を用いて、事例に基づいて説明がありました。

3. 認知機能の動揺性について

レビー小体型認知症における症状の変動として、日によって、あるいは時間帯によって「別人のよう」これはおそらく、脳の覚醒を維持する部位の障害。

4. 対応へのアドバイス

・「知る」と「分かる」ことが大切。

病気について「説明できる」と、ひとりひとりの行動・こころを「理解する」ことは別物。

「病気」の知識を土台としたその「人」の理解が必要。

・行動の裏側にあるものを理解するための工夫

① 生活のリズム・パターンを記録する

② 行動が起きる前後の状況を観察する

③ 繰り返されることの内容を考える（ご本人の記憶、生活史に照らして）

➤ 参加者の声 賛否ありました・

よかった点

- ・大勢で集まる事ができないので、このような形での開催はとてもありがたかった。
- ・移動時間がないので時間のロスがない。また天候にも左右されない。コロナ感染リスクが少ない。
- ・声が聞きやすい。
- ・自宅で落ち着いて講話を聞くことができた点は良かったと思います。
- ・自分の地域にはSNがない。オンラインなら参加できる可能性が高くなる

よくなかった点

- ・一人ずつ環境・症状が違うのでもっと個別に質問したかった。
- ・人によって音量が違うので人が変わると聞きづらくなった。
- ・ネット環境の関係で参加できなかった方がおられるのではないかと考えている。